



五穀豊穰を願って

木太刀の舞

御厨町寺ノ尾地区にある八幡神社（森川典幸宮司）で12月15日、木太刀の舞が奉納されました。

この舞は、同神社の例大祭で奉納される神楽の一つ。イタビの木で作られた太刀を担いで鈴を片手に舞う神楽で、太刀が大きいほど翌年は豊作になるという言い伝えがあり江戸時代から続く伝統行事です。

氏子の田中祐毅さんが手彫りで製作した木太刀は、長さ約1.3m、重さ約20kg。今福神社の早田伸次宮司が太刀を担ぎ、笛と太鼓に合わせて舞を奉納し、集まった地区の住民たちは、地区の安全と五穀豊穰を祈願しました。

木太刀は、市役所3階で期間限定で展示しています。



地元のお茶のパワーで元気に！

松浦茶業部会によるうがい茶の贈呈

JAながさき西海茶業部会松浦地区部会（松本敏明部会長）が12月20日、今福保育園にうがい用の緑茶を贈りました。

お茶の成分「カテキン」には殺菌作用があり、風邪やインフルエンザの予防効果が期待できると言われています。同会は、市内の小中学校や保育園などにうがい茶を配付し、市の特産品である松浦茶を使ったうがいの実践を呼び掛けています。

部会長らが作り方や効能を説明し、きりんぐみの園児16人が実践。みんなしっかりうがいをし、明日からも毎日続けることを誓いました。



笑って前向きに！

人権講演会

平成30年度人権講演会が12月9日、文化会館で開催され、約160人が参加されました。

人権講演会は、市民への人権啓発を目的として、毎年人権週間にあわせて開催されています。松浦市と平戸市の中学生による人権作文の発表が行われた後、講師の中山まさともさんが、『笑って前向きに～素敵な大人の背中を見せましょう～』と題し、常に前向きに、良いイメージをもつことの大切さについて話されました。

中山さんは、漫才、レポーター、俳優などさまざまな分野で活動されています。実体験を交え、良い人生を送る秘訣を軽妙な語り口で紹介され、参加者たちは熱心に聞き入っていました。



交通安全の決意を新たに

御厨中学校交通安全集会

12月20日に御厨中学校で交通安全集会が行われ、全校生徒134人が交通安全宣言を行い交通事故防止の決意を新たにしました。

この日は、松浦警察署、松浦地区交通安全協会、松浦地区連合防犯協会、松浦市少年補導員連絡会などの関係者らが、交通安全のための心がけや事故の被害を防止・軽減するため、後部座席シートベルトの着用の必要性などについて説明し、生徒たちは自分の命と周りの命を守ることに改めて考えました。

生徒たちは、「交通事故にあわない、起こさない」ために、交通ルールをしっかり守ることを宣言しました。



福をもたらす縁起物

松浦市シルバー人材センター

公益社団法人松浦市シルバー人材センター事業委員会（堤英雄委員長）が12月21日、松浦市役所、生涯学習センター、文化会館へ門松3対を寄贈しました。

同事業委員会は、新しい年を笑顔で迎えてほしいとの思いで、毎年門松を寄贈しています。

この日、同センターの会員らが、市役所南側の玄関の両脇に、高さ約1.8mの門松を約1時間かけて設置。

飾られた門松は、竹の先を斜めに切る「そぎ」が節の部分から切られ、にっこりとほほ笑んでいるように見えます。福を呼び込めるようにと製作した会員らの願いが込められた門松は、市役所などを訪れる人たちを出迎えました。



感謝の気持ちを込めて

今福少年ソフトボールクラブ

今福少年ソフトボールクラブの部員らが12月30日、今福神社の境内を清掃しました。

同クラブは、毎年初めに同神社に必勝祈願に訪れており、そのお礼に感謝の気持ちを込めて毎年この時期に清掃を行っています。この日は、部員や保護者らが竹ぼうきや熊手で落ち葉などを集め、約1時間かけて参道や境内をきれいにしました。

同クラブは現在部員2人と少ないながらも、日々練習に励んでいます。この日も、訪れる人たちが新年をすがすがしい気持ちで迎えらるよう互いに協力しながら清掃作業を行っていました。



長年の消防団活動の功績を称え

松浦市消防団 総務大臣感謝状受領

松浦市消防団が12月20日総務大臣から感謝状を授与されました。

この感謝状は、総務省消防庁において取りまとめた平成30年4月1日現在の消防団員数の速報値を基に、昨年度と比較して消防団員数が相当数増加した団体に贈られるもので、地域防災の要である消防団員の確保に努める活動が高く評価され、対象団体に選ばれました。

式典に参加した志水正信団長、副団長らが21日、市役所へ報告に訪れ、受領の喜びと女性消防団員増加に努めていきたいとの抱負を述べられました。



霊を慰め、絆を深める

佐々木祭

志佐町池成地区に約370年前から伝わる佐々木様の霊を慰める伝統行事「佐々木祭」が12月24日、池成公民館で行われました。

佐々木様は、この地域を治めていた平戸藩士で、参勤交代の留守中に妻の不義の噂を耳にし、大酒を飲むようになり亡くなったという故事が残されています。「佐々木祭」は、佐々木様に仕えた家臣の子孫が命日といわれる12月24日に集まって大杯で酒を飲む習わしで、家臣の子孫にあたる同地区5世帯で幹事を持ち回り毎年開催しています。集まった人たちは、酒1升を大杯で回し飲みしながら霊を慰め、親睦を深めました。

